



あい動物クリニック院長

(富山市小杉)

小杉 和伸

「かゆがっている」。日常の診察では、皮膚のかゆみに関して多くの飼い主さんからご相談を受けます。その中でも特に近年、症例数が多く、なかなか治療が困難な「アトピー性皮膚炎」についてお伝えしたいと思います。

原因としては「遺伝的因子」と「環境的因子」が複雑に関連した皮膚疾患であるため、完治がゴールではなく、生涯にわたる管理が必要な疾患、つまり治らない皮膚病の一つであることを飼い主さんにご理解いただくことから始めます。遺伝的因子に加えて、ハウス

## アトピー性皮膚炎



アトピー性皮膚炎の治療前④と治療後⑥



ダストマイト（コナヒョウウヒダニなど室内に生息するダニ）や食物アレルギー、ブドウ球菌、マラセチア感染が複雑に絡み合っていることがよくあります。

特徴としては3歳以下での発症、室内飼育、前肢をよくなめる、目の周りや耳の病変などがあります。治療を開始するにあたって

重要なポイントは、他の掻痒性疾患を取り除くことであり、ノミ・ダニの確実な排除や、アレルギーを考慮した食事管理も必要です。

シャンプー療法なども含め皮膚のケアをしながらの投薬治療になります。つまり獣医師だけで治すのではなく飼い主さんの協力も必要です。

# 飼い主の理解・協力必要

薬物投与では、以前から行われているステロイド治療がかゆみをよく止めてくれますが、副作用の問題もあり最近ではかゆみを引き起こす物質だけをターゲットにした副作用の少ない新しい薬が開発され、治療の選択肢が広がりました。

治療が難しい病気ですが、治療によく反応して、かゆくない日常生活を過ごせる例があることも事実です。根気よくあきらめずに担当の獣医師としっかり相談し、飼い主さんも病気のメカニズムをご理解いただければと思います。好ましい結果になるよう参考にしていただけると幸いです。

毎月第一土曜掲載